

福岡県のスポーツをより元気に スポーツの力で福岡県をより元気に スポーツ立県福岡



主催:福岡県人づくり・県民生活部 スポーツ局 スポーツ振興課
主管:福岡教育事務所 社会教育室

令和3年度福岡地区地域スポーツイノベーションカレッジ

福岡教育事務所管内16市町および福岡市のスポーツ担当者(イノベーター)が、自市町のスポーツをさらに推進できるように、今年度は計4回、標記カレッジを開催した。

1 第1回カレッジ(9月)

- (1) 目的 今年度の福岡地区イノベーターが、顔合わせや情報交換を行い、今後のカレッジの見通しをもつ。
- (2) 日時 9月29日(水) 15:30~16:30
- (3) 形態 Zoomによるオンライン開催
- (4) 参加者 福岡地区イノベーター15名
(福岡市を含む14市町から参加)



【写真1】イノベーターが交流する様子

- (5) 内容
各々のイノベーターの「知りたいこと・学びたいこと」といった、カレッジに対する学びの「目的」を共有した。Zoomの機能のブレイクアウトルームを活用し、3つのグループに分かれて、カレッジで知りたいこと・学びたいことの理由や背景について、各市町同士で情報交換を行った。その後、今後は目的を達成するための「手段」(テーマ)について第2回で協議し、決定したことを第3回で実施していくという方向性について共有した。

2 第2回カレッジ(10月)

- (1) 目的 福岡地区のイノベーターが、事例紹介や協議を通して、自市町の地域スポーツをさらに推進していくためのヒントやアイデアを得る。また、イノベーター同士の協議によって今年度のカレッジのテーマを決める。
- (2) 日時 10月27日(水) 13:30~16:45
- (3) 会場 福岡県教育庁福岡教育事務所 研修室(福岡県吉塚合同庁舎3階)
- (4) 参加者 福岡地区イノベーター13名(福岡市を含む13市町から参加)
- (5) 内容

まず、3市町のイノベーターが、下記のテーマで15~20分の事例紹介を行った。

- ① 福津市イノベーター 末 紗来良 氏
テーマ:「課題解決に向けた情報収集・活用方法」
- ② 宇美町イノベーター 村上 景太 氏
テーマ:「町民や関係者をいかに巻き込み、
宇美町スポーツ推進計画を策定したのか」
- ③ 大野城市イノベーター 岸川 達哉 氏
テーマ:「HADOのすべて~企画から実現にいたるまで~」



【写真2】岸川氏による事例紹介

次に、今後のカレッジのテーマ決めを行った。3つのグループでの協議・全体での協議を経て、最終的には、イノベーターの意見を集約して「e スポーツ」「障がい者スポーツ」の2つのテーマを柱に、今後のカレッジを進めていくことを決めた。

グループ協議の中で、「SNS を活用した広報や周知するための方法」「外部との連携」「スポーツ推進委員の活用方法」などのテーマも意見として出ていたが、これらについては、2つのテーマを学びながら関連させて考えていくことで共通理解を図った。



【写真3】全員でテーマを決める様子

3 第3回カレッジ（12月）

- (1) 目的 福岡地区のイノベーターが、eスポーツの講義や実技を通して、自市町の地域スポーツをさらに推進していくためのヒントやアイデアを得る。
- (2) 日時 12月15日（水）13：30～16：30
- (3) 会場 eスポーツチャレンジャーズパーク（天神ロフト8階）
- (4) 参加者 福岡地区イノベーター21名（福岡市を含む16市町から参加）
- (5) 内容

講師による講義とイノベーターによる実技を行った。株式会社戦国の村田健夫部長からは、「e スポーツや施設の概要」について、福岡eスポーツ協会の中島賢一会長からは、「高齢者福祉や地域活性化に資するeスポーツの可能性」等についてのお話があった。

また、イノベーターが実際にeスポーツを2種類体験することで、eスポーツについての見識を深めることができた。



【写真4】eスポーツを学ぶイノベーター

4 第4回カレッジ（3月）

- (1) 目的 福岡地区のイノベーターが、協議や情報交換を通して、コロナ禍でも、自市町の地域スポーツをさらに推進していくためのヒントやアイデアを得る。
- (2) 日時 3月15日（火）15：00～16：30
- (3) 形態 Zoomによるオンライン開催
- (4) 参加者 福岡地区イノベーター11名（管内の11市町から参加）
- (5) 内容

「障がい者スポーツ」をテーマにした2月の参集型カレッジの実施が叶わなかったため、「コロナ禍で不要不急に位置付けられたスポーツをいかに取り戻すか」をテーマに、オンラインで意見を交わした。

「今わたしたちにどんな行動が必要か」「第7波・第8波に備えて今のうちからできることは何か」というテーマについて、自分一人では思いつかないことも、福岡地区のつながりを活用して考えることができた。



【写真5】コロナ禍のスポーツを考える様子

以上、年間を通してコロナ禍でも「スポーツのあゆみを止めない」ために、福岡地区イノベーターが集まって知識を習得する場や情報交換を行う場を定期的に設けることができた。

以下は、今年度のカレッジの各回の感想の一部と、今年度の成果と課題である。

5 カレッジの感想（第2回以降）

（第2回）

- ・これまで受けたことのある行政の研修とは違い、本当に大学のような、良い意味で自由な場だなと感じました。皆さんの熱意に圧倒されました。良い機会でした。
- ・今回事例発表をしていただいた3名のお話を聞いて、実行に至るまでのプロセスや、行動力に感銘を受け、私自身もっとがんばらなければならないと実感しました。
- ・次回の内容に関しては、1つの市町ではなかなかできないような内容をやりたいと思っていたので、eスポーツや障がい者スポーツなどの内容に決まってよかったと思います。ただし、カレッジを受けることが目的で終わることがないように、その先に自分の市町でどのように活用できるかまでを考えて、次回参加しようと思います。

（第3回）

- ・eスポーツ（ゲーム）を通して楽しんでコミュニケーション力がつく、思考力が鍛えられるということは大変有意義なことだと思います。また子どもから高齢者、障がい者までが同じ舞台で楽しめる競技はなかなかないものだと思うので、eスポーツは面白い種目だなと思いました。実際に体験させていただいて、声かけなどコミュニケーションが必要であり、ゲームを通じて様々なことが勉強できると実感したので、これからの業務に活かしていければと思います。
- ・今まではeスポーツをすること、eスポーツを事業・イベントにすることばかり考えていましたが、eスポーツを手段として考えられることができて良かったと思います。子どもや高齢者の支援、また市の課題解決の1つとしてeスポーツの可能性を感じることができました。

（第4回）

- ・コロナ禍だからやらないではなく、その中でもできることを考え実施する大切さを改めて学びました。
- ・コロナ禍でいかにしてスポーツ活動をすすめるか、他市町の事例を交えた意見交換ができて有意義な時間でした。一年間、ありがとうございました。

6 今年度の成果と課題

- 主催者側がテーマを設定するのではなく、イノベーターの声をもとにテーマを設定したことで、イノベーターが主体的にカレッジに参加することができた。
- 各回に事例紹介や講義・実技を位置付けたことで、年間を通してイノベーターが普段なかなか得られない情報を入手したり、体験を行ったりすることができた。
- イノベーターが新しい情報を収集するための場を提供するだけではなく、自市町での実践や企画を持ち寄り、このメンバーならではのプログラムを企画したり実践したりする機会が増えるように、県としてイノベーターの困りや要望をさらに吸い上げていく。

次年度も、福岡地区各市町のスポーツ推進のために、引き続き尽力していきたい。